

様式3

令和4年度ふるさと人材・地域づくり推進事業
「持続可能な地域づくり充実事業」実施報告書

学校番号	32	学校名	大曲農業高等学校	(全)・定)
------	----	-----	----------	--------

実施した内容について次のとおり報告します。

テ ー マ	大仙市農業振興情報センター研修生との相互交流
実 施 日 時	令和4年10月24日（月）12:40～15:00 令和4年12月16日（金）13:30～15:00
場 所	令和4年10月24日（月）大仙市農業振興情報センター 令和4年12月16日（金）大曲農業高等学校
参 加 人 数	生徒26名
実 施 内 容 等 ・ 状 況	<p>相互交流は、新規に就農を考えている大仙市農業振興情報センター研修生（以下、研修生）と、本校で将来農業に関わろうと考えている生徒の意見交換などを行う機会として、2回実施した。新型コロナウイルスの影響により、従来より回数を減らしての実施とした。</p> <p>1回目は、農業振興情報センターを訪ね、視察研修を行った。前半は、センターの概要や研修生との顔合わせを行い、後半は、研修生が管理している圃場を案内していただいた。</p> <p>2回目は、研修生と本校生徒が事前に立ててきた将来設計をもとに、意見交換を行った。研修生や生徒が相互に意見を出し合い、より具体的で現実的な将来設計になるよう話し合いをした。お勧めの作目や適正な経営規模、農地の取得などについて、より具体的な将来設計、マイライフプランを作ることができた。</p>
成 果 と 課 題	<p>2回目の相互交流後にとったアンケートによると、ほとんどの生徒が「漠然とした将来の目標が具体化され、経営に向けた知識などを得ることができた」といった感想をもち、多くの生徒が研修を通じて様々なスキル等が身に付いたことから、一定の効果があつたと考えている。また、研修生の方々からも「生徒たちが具体的に計画をしていることに驚いた。自分も目標に向かってしっかり行動したい。」と刺激を受けた様子うかがえた。</p> <p>また、研修生とのつながりができたことも大きな成果である。研修生の方々とは、いわゆる農業の先輩として就農前の今はもちろん、就農後も関わる場面があると思われる。その関係作りができたこともこの相互交流のもう一つの目的であり、成果であつたと感じている。</p>



(相互交流初回の自己紹介及び質疑応答)



(研修生が管理している温室紹介)



(研修所内の見学と説明)



(相互交流2回目の意見交換①)



(相互交流2回目の意見交換②)



(相互交流2回目のマイライフプランの発表)